科目名	開講時期	開講学年	必修/選択	単位	時間
成人看護学実習Ⅰ	通年	3 年	必修	3 単位	135 h

担当教員名	メールアドレス	オフィスアワー
◎香川将大　渡邉美和　岡本佐智子	shota.kagawa@tohto.ac.jp miwa.watanabe@tohto.ac.jp sachiko.okamoto@tohto.ac.jp	学生の申し出により時間調整

授業の概要

周術期及びクリティカルな状態にある対象者の健康問題を理解し、対象者とその家族への看護の必要性を判断し、個々に応じた看護を実践するための基礎的能力を修得する。また、ヒューマンケアの理念に基づき、医療チームの一員として貢献するための態度を身につける。

キーワード	到達目標
周術期看護　クリティカル フィジカルアセスメント チーム医療・協働 看護過程展開	１．手術を受ける対象の特徴とそれぞれの健康特性を、身体・心理・社会の各側面から総合的に理解し、アセスメントできる ２．根拠に基づき、手術を受ける対象の健康上の諸問題を統合的に把握し、見出した看護問題から看護計画を立案できる ３．看護計画に沿って手術を受ける対象の療養生活を支援し、自己の看護実践を客観的に評価できる ４．人間の尊厳を尊重する姿勢や看護専門職としての倫理観をもち、医療チームの一員として主体的・継続的に貢献するための態度・行動をとることができる ※ 本実習の到達目標 1～3 は主に「実習記録（アセスメント・計画・実習記録・看護要約等）」を通して評価し、到達目標 4 は「実習態度・行動」「チーム連携」「倫理的配慮」等を中心に評価する。

学習内容

【実習方法】
本実習では、周術期の患者を 1 名受け持ち、アセスメントから計画・実践・評価までの看護過程を一貫して学びます。また、中間カンファレンス等を通して計画の妥当性を検討し、他の学生や指導者と協働しながら学修を深めます。

1．実習場所：　主に外科病棟、手術室
2．担当予定の患者：　周術期にある患者
3．実習の進め方
　1 週目：　事前学習（学内演習）
　2 週目：　学内オリ、口頭試問、事前評価面接、学内演習、病棟オリ、病棟実習、中間評価＆カンファ①
　3 週目：　病棟実習、ケースカンファ、中間カンファ②、最終カンファ、最終評価面接

※　事前課題（ブックレット・動画等）の完成が、履修の前提となります（実習初日に確認）。
※　臨地実習初日は、学内で以下を実施します。
　① 事前課題に沿って周術期看護に必要な基礎知識（術前・術後管理、合併症予防等）の理解度を確認し、個別の課題を明確にするための口頭試問を行う。
　② 周術期看護演習（観察・術後管理等）を実施し、臨地での援助につながる基本技術の確認を行う。
※　実習の詳細は、「**2026 年度　健康レベル別看護学実習Ⅰ　実習要項**」を参照すること。

受講要件

2 年次後期までの学年進度とされているすべての必修科目の単位を修得していること

実習記録（事前課題を含む）	その他	合計
65%	35%	100%

教員からのメッセージ
周術期の患者さんは、身体的にも精神的にも非常にストレスフルな状況にあり、多くのケアを必要としています。看護実践の質が患者さんの回復を左右します。したがって、皆さんには、これまでの学びを十分に復習し、周術期の患者さんに看護をするために必要な知識をもって実習に臨むことを期待します。実習を通し、これまでの知識と実践がつながり、看護の面白さややりがいを皆さんが実感できるように、教員と臨床指導者が連携しながら実習指導にあたります。